

姫路文学学校準備室第四回

文学の響きが時代錯誤的になっている今の時代に、ささやかで小さな試みを始めています。

かつて神戸には「神戸市民の学校」があり、今も大阪には全国的な規模の「大阪文学学校」が存続しています。個人的に二つの文学を基調にした学校に縁をもたせてもらいました。五十年前のそんな経験がいまだに創作の面白さのワクワク感を保っているのです。(大西隆志)

昨年七月にスタートを切り、講師には詩人/俳人・大橋愛由等氏、二回目は俳人・夏石番矢氏、三回目は川柳作家・大西泰世氏を迎えて進んできました。

今回は四回目。二カ月に一回程の開催で、小規模でやっています。講義と創作合評の二部に分かれ、講義のほうは文学、文学につながる哲学思想、社会科学などの文化を中心に、幅広いジャンルを取り扱います。創作合評は、自作の詩歌(詩/俳句/短歌/川柳)、小説、エッセイなどを相互に語り合います。

われわれの文学学校準備室は、姫路というトポスに立脚しつつも、同時に地域性を越えた創造力あふれる文学や表現を発信するメディアであることを目指したいと思います。



第4回

日時・1月23日(月曜日)13時30分～17時
会場・ブックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階
姫路市本町68番地/姫路駅からみゆき通り商店街を北へ徒歩7分。国道2号線(東行一方通行)を渡り本町商店街の一本目の角を西に30メートル進む。内藤広告西隣「クワイエット・ホリデー」の2階。
連絡先・090-3714-9387(書肆風羅堂・大西)

※4回目は詩人の季村敏夫氏による講義※

※「活弁士●詩村映二」

季村敏夫氏のプロフィール

詩人。1948年京都市に生まれ、神戸市長田区で育つ。同志社大学経済学部中退。詩集に『冬の木霊』(1974、国文社刊)、『つむぎ唄、泳げ』(1982、砂子屋書房刊)等のほかに、阪神・淡路大震災をテーマにした『日々の、すみか』(1996、書肆山田刊)がある。また共編著に『生者と死者のほとりー阪神大震災・記憶のために試み』(1997、人文書院)。2003年に詩人の瀧克則、装幀家の間村俊一らと文芸雑誌「たまや」を創刊。2004年に出た詩集『木端微塵』(書肆山田刊)で5回山本健吉文学賞受賞。2011年には詩集『ノミトビヒヨシマルの独言』(書肆山田刊)で第29回現代詩花椿賞受賞。現代詩史の再検討を迫った『山上の蜘蛛ー神戸モダニズムと海港都市ノート』(2009、みずのわ出版)、『寒の微風ーモダンズム詩断片』(2010、みずのわ出版)もある。『一九三〇年代モダニズム詩集ー矢向季子・隼橋登美子・冬澤弦』(みずのわ出版刊)、『一九二〇年代モダニズム詩集ー稲垣足穂と竹中郁その周辺』(思潮社刊)、『カツベン 詩村映二詩文』(みずのわ出版刊)など。季村敏夫個人誌「河口から」(澁標刊)がある。詩人として多くの詩集を刊行し、傍ら埋もれた詩人の発掘を通して新たな文学史を探求、提示しようとする。昨年これらの実績で「井植文科賞」を受賞。その他には、詩の朗読を行い、CD『生かされる場所』を野生のギタリスト澤和幸と共に出す。もう一枚、ジャズピアニストの板橋文夫との『神戸・祈り』も素晴らしい仕事だ。

◎参加には、自作の詩歌又は小説、エッセイを持参。10部程コピーして下さい。持参できなくても合評会には参加し発言して下さい。楽しくワイワイとやります。

1部の講師には500円のカンパ、ワンドリンク発注必要です。長時間でもあり菓子等の持込は可能。

自作の作品は当日に配布するので、詩は1～2篇。俳句・短歌・川柳は10句、10首程度。

小説、エッセイは1200字(原稿用紙3枚)程度。

1部講座は13:30より質疑応答を含め1時間30分程度。休憩を挟んで17:00まで創作合評。

～予告～

第5回

日時・2023年3月20日(月曜日)

13時30分～17時

会場・ブ

ックカフェギャラリー・クワイエット・ホリデー(Quiet Holiday)2階

講師・千田草介(小説家)

1991年第3回日本ファンタジーノベル大賞の優秀賞受賞を原岳人で受賞。著書『なんか島開拓誌』(新潮社)がある。「姫路文学」、「文芸日女道」同人。千田名義で『坂東大蔵 花歴芸道一代記』がある。テーマは「幻想文学をテーマ